

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17071

研究課題名(和文)女性活躍推進策と保育政策の効果に関する実証研究

研究課題名(英文)Parental leave, Universal childcare and Female Employment

研究代表者

朝井 友紀子(Asai, Yukiko)

東京大学・社会科学研究所・特別研究員

研究者番号：10588172

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文): 出産・育児を経験する労働者の仕事と家庭との両立を推進することは、女性の就業継続率を引き上げるために重要である。本研究では、主に女性の就業継続を支援する2つの政策に注目した。第1に、育児休業中の所得保障を目的とした育児休業給付金の給付率引き上げの効果、第2に、保育所の定員拡大と女性就業の関係、主たる保育者が変わることの子どもへの発達への効果を検証した。研究の成果は、Labour Economicsをはじめとする査読雑誌に掲載するとともに国内外で研究報告を行った。

研究成果の概要(英文): This research has evaluated policies implemented by the Japanese government aimed to encourage women to remain in the workforce around childbirth. My research focuses on two types of these family policies: (1) parental leave, and (2) universal childcare. My work on parental leave asks whether increases in cash benefits increase job continuity of new mothers. I exploit legal changes that have made parental leave more generous over time. In the end, I find little effects of these increases in generosity on job continuity. My work on universal childcare examines the relationship of local childcare availability on female employment and childhood developmental outcomes. I find modest effect on employment outcomes, substantial substitution between childcare and grandparental care, and some mixed effects on medium-run childhood development. A key theme in this research is that substantial barriers continue to exist that limit the intended effects of these policies on female employment.

研究分野：労働経済学

キーワード：女性就業 保育 子どもの発達

1. 研究開始当初の背景

男女共に仕事と子育てを容易に両立できる社会の実現が日本の強い経済を取り戻すためには不可欠である。政府は、1990年代より育児休業制度の改正や保育所の整備を行ってきた。また、2017年度末までに約40万人分の保育の受け皿確保の待機児童解消加速化プランを推進し、育児休業給付を休業開始前賃金の50%から67%に引き上げた。

出産前後の就業継続支援や保育所定員の拡大により、仕事と子育てを両立しやすい環境を整備することは、女性の就業継続を促進するだけではなく、長期的には出生率の上昇にもつながると考えられる。本研究は以上の問題意識から、育児休業政策と保育政策の評価を行う。

2. 研究の目的

本研究では、女性活躍推進策として注目されている育児休業政策と保育政策の評価を行う。政府の成長戦略においても、女性がその能力を最大限発揮できる環境を作り出すことは、日本の成長の持続に欠かせないことが指摘されている。仕事と子育ての両立を可能とするためにより効果的な政策立案を行う上で、既存の政策の評価は重要である。

育児休業は、休業中の所得保障と職場復帰の権利を保障することで、出産前後の女性の就業継続を支援する制度である。1992年の制定から度々改正が行われ、近年ではより手厚い制度となった。一方、保育所定員の拡大は、職場復帰後の就業継続を支援する。1990年から2010年の間に、保育所定員の拡大政策が実施された。保育所定員率は、全国的に大きく上昇したが、その増加率は地域によって異なった。

本研究では、女性の就業継続にとって重要な上記の2つの政策の評価を行う。さらに、本研究では、新しい試みとして、保育所定員の拡大が子どもの福祉に与える影響も検証する。日本において、子どもの成長と発達の観点から保育政策を評価した研究は蓄積がなく、政策立案を行う上で貴重な資料となると考える。

3. 研究の方法

〔育児休業制度改正の効果〕

本研究では、まず出産前後の就業継続の促進と休業中の所得保障を目的とした育児休業給付金の給付率引き上げの効果を検証する。1992年に制定された育児休業制度は、1995年から育休給付金が給付されることとなった。当初の給付率は出産前平均賃金の25%であったが、2001年には40%、2007年には50%に引き上げられた。これら改正により、改正前に出産した女性と改

正後に出産した女性の育児休業中の給付金額に外生的な差が生じた。これらの改正は、妊娠・出産をする女性が予測不可能なタイミングで実施され、擬似実験のような環境が生まれたことから、差の差分分析等の政策評価の枠組みでその効果を検証した。

〔保育政策の効果〕

保育所定員率の変化が母親の就業率を上昇させるかどうかを、地域間における保育所定員率の変化の差を用いて検証した。日本では祖父母による保育の割合がOECD諸国と比較して高いことに注目し、祖父母による保育（私的保育サービス）と保育所による保育（公的保育サービス）の間に代替が生じたのかどうかを検証した。また、私的保育サービスから公的保育サービスへの代替により、女性の就業に及ぼした影響を検証するとともに、子どもにどのような影響が生じたのかどうかを検証した。

4. 研究成果

研究の成果は、「5. 主な発表論文等」に記載の通り国内外の学会で報告した。育児休業給付金の給付率引き上げの効果を検証した“Parental Leave Reforms and the Employment of New Mothers:

Quasi-experimental Evidence from Japan”と題する論文は、国際査読雑誌である*Labour Economics*に掲載した。

また、保育所定員率の変化が母親の就業率を上昇させるかを検証した“Childcare Availability, Household Structure, and Maternal Employment”と題する論文は、国際査読雑誌である*Journal of the Japanese and International Economies*に掲載した。保育所定員の拡大が子どもの福祉に与える影響を検証した論文は、一橋大学経済研究所 Discussion Paper Series として公表を行い、現在査読雑誌への投稿中である。今後もこれまでの研究の成果の公表を積極的に行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

Yukiko Asai, “Parental Leave Reforms and the Employment of New Mothers: Quasi-experimental Evidence from Japan”, *Labour Economics*, Volume 36, October 2015, Pages 72–83. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.labeco.2015.02.007>（査読有）

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and

Shintaro Yamaguchi, “Childcare Availability, Household Structure, and Maternal Employment”, *Journal of the Japanese and International Economies*, Volume 38, December 2015, Pages 172–192. DOI:

<https://doi.org/10.1016/j.jjie.2015.05.009> (査読有)

朝井友紀子、神林龍、山口慎太郎「育児休業給付金と女性の就業」、2016、内閣府経済社会総合研究所「**経済分析**」第191号, Pages 153-164. URL:

<http://www.esri.go.jp/jp/archive/bun/bun191/bun191g.pdf> (査読有)

朝井友紀子、神林龍、山口慎太郎「保育所整備は母親の就業率をなぜ押し上げなかったのか」、2016、内閣府経済社会総合研究所「**経済分析**」第191号, Pages 121-152. URL: <http://www.esri.go.jp/jp/archive/bun/bun191/bun191f.pdf> (査読有)

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, “Effects of Subsidized Childcare on Mothers’ Labor Supply Under a Rationing Mechanism”, 一橋大学経済研究所 Discussion Paper Series, A658, URL: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/Common/publication/DP/DPS-A658.pdf> (査読無)

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, “How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?”, 一橋大学経済研究所 Discussion Paper Series, A656, URL: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/Common/publication/DP/DPS-A656.pdf> (査読無)

[学会発表] (計 13 件)

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, “Childcare Availability, Household Structure, and Maternal Employment” 日本経済学会春季大会、2015

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, “Childcare Availability, Household Structure, and Maternal Employment”, The Twentieth SOLE Meetings/Fourth SOLE/EALE World Conference, 2015

Yukiko Asai, ” Overtime Premium and Hours of Work: Lessons from the Mandatory Increase in the Overtime Premium Rates”, The 1st Hitotsubashi Summer Institute (Labor Economics), 一橋大学, 2015

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, “Childcare Availability, Household Structure, and Maternal Employment”, 8th Trans Pacific Labor Seminar, 2015

Yukiko Asai, ” Overtime Premium and Hours of Work: Lessons from the Mandatory Increase in the Overtime Premium Rates”, The European Economic Association Annual Congress, 2016

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, ” Effects of Childcare Availability on Children and Labor Supply in Extended Family”, 9th Trans Pacific Labor Seminar, 2016

Yukiko Asai, “Overtime Premium and Hours of Work: Lessons from the Mandatory Increase in the Overtime Premium Rates”, American Economic Association Annual Meeting (poster), 2017

朝井友紀子” Overtime Premium and Hours of Work: Lessons from the Mandatory Increase in the Overtime Premium Rates”, 東京労働経済学研究会, 2017

Yukiko Asai, Dmitri Koustas ” The Rise of Temporary Workers: Who Benefits from Flexible Labor Demand?”, 10th Trans Pacific Labor Seminar, 2017

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, ” How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?” 日本経済学会秋季大会、2017

Yukiko Asai” Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from a Parental Leave Reform” SNU Research in Economics 2nd Conference (Seoul National University), 2017

Yukiko Asai” Overtime Premium and Hours of Work: Lessons From the Mandatory Increase in the Overtime Premium Rates” Asian and Australasian Society of Labour Economics, 2017

Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, ” How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?” Society of Labor Economists Twenty-Third Annual Meetings, 2018

[図書] (計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

〔アウトリーチ活動〕

Invited lecture, " Knowledge Week -
Demographic Change in Japan", Graduate
School of International Corporate
Strategy, Hitotsubashi University, Japan,
March 2017

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝井 友紀子 (ASAI, Yukiko)
東京大学・東京大学社会科学研究所・特別
研究員
研究者番号：10588172

(2) 研究分担者

登録なし

(3) 連携研究者

登録なし

(4) 研究協力者

山口 慎太郎 (YAMAGUCHI, Shintaro)
マクマスター大学・経済学部・准教授